

農村の変化と民衆の動き

変わる農村

江戸時代になると、庶民の衣服が
麻 → **木綿** になってきました。

東海から瀬戸内地方にかけて、**綿**作が行われるようになりまし

その他にも、タバコ、油の原料である**菜種**、**染料**となる**あい**、**紅花**などの売買を目的につくる**商品作物**の栽培も各地で広がりました。

商品作物の栽培で利益が出た農民は肥料を購入して生産量を増やしてさらに豊かになる。

商品作物をつくるために今まで自給自足に近かった農村のくらしが、貨幣で物が売買されるようになり大きく変化しました。

また、貧富の差が激しくなってきました。

- (貧) 土地を手放して**小作人**になる者
- (富) 土地を買い集めて**地主**になる者

農民に原料や道具を前貸し(レンタル)させて、出来高に合わせた借金を払う者… **問屋制家内工業**

綿などを農民から買い集める**問屋**

工場内に働き手を集めて分業で製品をつくる**工場制手工業 (マニファクチュア)**も始まった。

